

建設業

# しんぶん

Sep.2023

9

No.551

建設産業の今を伝え未来を考える

特集

建設分野の特定技能外国人の  
受入れについて



今月のCCUS

技能者の能力評価申請を!



建設キャリアアップシステム

人を大切に育てる新しいシステムです  
事業者・技能者みなさまのご登録をお願いします



一般財団法人  
建設業振興基金

建設業の労働安全衛生について考え学び情報発信する2日間

第60回

# 全国建設業 労働災害 防止大会 in 広島

開催日 2023年10月5日(木)・6日(金)

現地開催とオンライン配信を組み合わせた  
ハイブリッド開催

初日：総合集会

広島県立総合体育館  
(広島グリーンアリーナ)



2日目：専門部会

広島国際会議場 他

同時開催  
安全衛生保護具・  
測定機器・安全標識等  
展示会



主催：建設業労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会広島県支部

開催主協力支部：建設業労働災害防止協会鳥取県支部、島根県支部、岡山県支部、山口県支部、徳島県支部、香川支部、愛媛支部、高知県支部

 建設業労働災害防止協会

全国大会ホームページ▶



## CONTENTS

特集

建設分野の特定技能外国人の  
受入れについて

02

## (一社)建設技能人材機構(JAC)

- 年齢階層別の建設技能者数
- 建設分野における外国人材の種類
- 特定技能外国人になるルート
- 受入企業がすべきこと
- 受入負担金
- 受入企業Interview

## FOCUS

## 工業高校紹介

## 徳島県立阿南光高等学校

- インタビュー：河野 竜一 先生

08

## PRESCRIPTION

## 日本経済の動向

- 低賃金・低インフレのノルムに変化の予兆

10

## 建設経済の動向

- 国の事業で原則適用に入ったBIM/CIM

11

## 連載

## 2024年まで残りわずか!!

## 働き方改革への最終チェック

- 【第5回】  
定着率向上への取組

12

## 連載

## かわいい土木【第50回】

- 鮫角灯台  
／青森県八戸市

14

## お役立ち連載

建設キャリアアップシステム  
を活用しよう!【第11回】

16

いつでもチェック!!

建設業  
しんこうWeb建設産業の今を伝え  
未来を考える「建設業しんこう」は  
Webでも  
ご覧いただけます。

しんこうWeb

検索

<https://www.shinko-web.jp/>メルマガ登録は  
コチラから!

【建設業しんこう】に関するご意見・ご要望

TEL : 03-5473-4584 (企画広報部)

MAIL : [kikaku@kensetsu-kikin.or.jp](mailto:kikaku@kensetsu-kikin.or.jp)

印刷：日経印刷株式会社

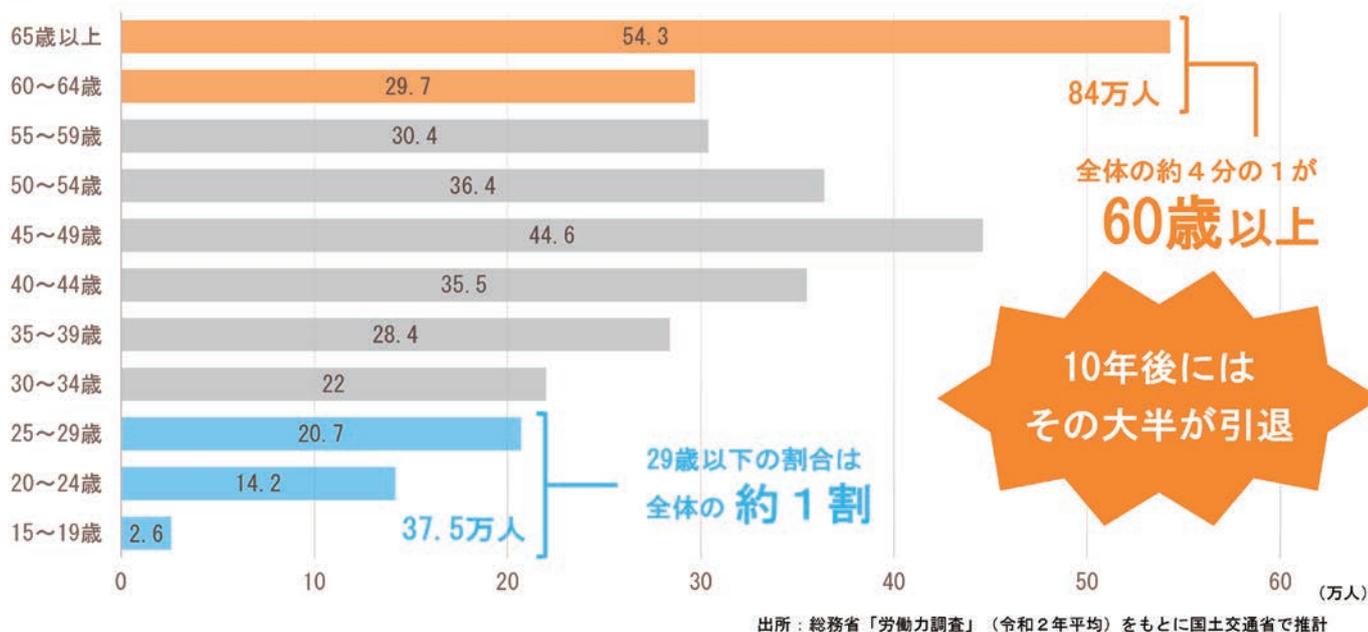
©本誌記事の無断転載を固く禁じます。

# 建設分野の特定技能外国人の 受入れについて

## (一社) 建設技能人材機構 (JAC)

建設業界は深刻化する人手不足に悩まされています。建設業界の就業者数は1997年の685万人をピークに、2020年11月時点では505万人に減少しています。生産性向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材の確保が困難な建設分野において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていく制度が2019年より導入されました。それが、「特定技能外国人制度」です。

### ■ 年齢階層別の建設技能者数



建設業は、他産業と比べて技能実習生の失踪が多く、失踪した実習生が不法就労の状態でも別の建設現場で働いている現状が見受けられました。また、ライバル会社が安価な労働力として外国人を雇うことになれば、建設業者間の公正な競争環境をゆがめるのではないかと懸念もあり、業界として賃金や社会保険、安全衛生のルールをしっかりと整備して、ルールを守らない企業を排除していく必要があります。

こうした問題に対して建設分野では、特定技能外国人を受け入れる企業は、出入国在留管理庁からの在留資格取得の前に、受入計画を作成して国土交通省の認定を受け、認定後も認定計画の実施状況について国土交通省または適正就労監視機関から確認を受けることが義務付けられました。

そして、この制度の創設により、技能実習2号等修了後、引き続きの在留が認められなかったこれまでとは異なり、引き続き通算5年間、企業の戦力として働いてもらうことができるようになりました。また、帰国している技能実習修了者も、再度呼び寄せ、直接雇用することができるようになりました。

建設現場での外国人材には2種類の在留資格があります。

■建設分野における外国人材の種類

技能実習

我が国の技能、技術又は知識を開発途上国等へ移転を図り、開発途上国の経済発展を担う「人づくり」に協力することを目的として受け入れている。

特定技能

相当程度の知識又は経験を有する外国人労働者を、我が国の人手不足が深刻な特定産業分野（建設、介護、製造、農業等の12分野）に受け入れている。

特定技能と技能実習は「外国人を企業で受け入れる」という点では同じですが、受入れの目的など様々な点で異なります。

1 目的

- 特定技能は、日本の人手不足を補うための制度です。
- 技能実習は、日本で習得した技術を母国に持ち帰って広めてもらうという、国際貢献のための制度です。

2 作業内容

技能実習は25職種だったのに対し、特定技能では後述する3区分での作業が可能となり、建設関係の技能実習職種を含む建設業に係る全ての作業に従事することができます。

■特定技能外国人になるルート

建設分野のほとんどの職種の技能実習生が、試験なしに在留資格「特定技能」への切替えが可能となりました。特定技能外国人になるルートは以下の2つがあります。



ルート1：技能実習等を経験していない外国人の場合（試験合格者）

ルート2：技能実習等を経験している外国人の場合（試験免除者）



※技能実習を2年10か月以上修了し、随時3級もしくは評価調書が提出できる者。

## トピック

### 特定技能の業務区分が変更されました

これまでの建設分野の特定技能1号は、19業務区分(18試験区分)に分かれていました。旧制度では、ある区分で特定技能の資格を取得しても、その業務以外に携わることができませんでした。また、技能実習対象なのに特定技能にない職種があるなどの不整合もありました。

現在、技能実習対象職種を含め、建設業に係る全ての作業を大きく3つの特定技能業務区分、業務区分【土木】、業務区分【建築】、業務区分【ライフライン・設備】に再編されております。これにより、特定技能外国人が従事可能な業務範囲が拡大、柔軟に仕事ができるようになりました。

現在所持している特定技能の資格については、その職種が分類された区分で引き続き業務を行えます。さらに、その業務が分類されている区分の他の業務も行うことが可能になります。区分再編により、従来可能であった作業ができなくなることはありません。

また、再編に伴い、特定技能1号技能評価試験も業務区分【土木】、業務区分【建築】、業務区分【ライフライン・設備】の3つの試験区分に再編されました。

例えば、業務区分【土木】の技能評価試験に合格すると、土木工事に携わる仕事に、業務区分【建築】の技能評価試験に合格すると建築工事に携わる仕事に就くことができるようになります。更に、業務区分【ライフライン・設備】の技能評価試験に合格するとライフライン・設備に携わる仕事に就くことができるようになります。

## よくいただく質問

### Q. 技能実習から特定技能への移行はどうなっていますか？

A. 移行対象となる技能実習の修了者については、これまでと同様、特段追加の試験等を受けることなく、対応する特定技能への移行が可能です。対応する特定技能の業務区分以外への移行を希望する場合については、移行を希望する業務区分に対応する試験を別途受験していただく必要があります。

## 特定技能外国人を受け入れるためには

### ■ 受入企業がすべきこと



## ここがポイント！

## キャリアアップシステムへの登録

特定技能外国人制度において、受入企業は「建設キャリアアップシステム」への加入が義務づけられています。これは、技能者本人の情報や日々の就業履歴を蓄積し、見える化することで、技能と経験に応じた処遇を実現するために導入されたものです。このシステムを活用することで、日本人なのに外国人より安い賃金はおかしい、外国人だから安い賃金でいいなどといった、誤った認識が生じないように、客観的に技能を評価することができます。

※本年度より、「CCUS手数料支援」として、特定技能外国人を雇用する事業者の管理者ID利用料、特定技能外国人の能力評価手数料の費用負担をJACがサポートします。

・管理者ID利用料(11,400円/年)は、一旦(一財)建設業振興基金(CCUS事務局)へお振込みいただき、JACのWebページの申請フォームからご申請ください。後日JACより指定口座に全額返金いたします。

・1号特定技能外国人の能力評価手数料(4,000円/人)をJACが全額負担いたします。これまで能力評価手数料は、建設技能者能力評価推進協議会事務局(建設産業専門団体連合会)へお支払いいただいておりますが、無料となります(費用はJACが全額負担し、JACから事務局に直接お支払いいたします)。

なお、CCUS手数料支援の問い合わせ窓口は、現在準備中です。準備ができ次第、Webページ等でお知らせいたします。

## 受入負担金の負担

1号特定技能外国人を受け入れる建設企業の皆様には、1号特定技能外国人1名につき毎月、受入負担金を負担いただく仕組みとなっています。なお、この受入負担金は、直接的又は間接的を問わず、1号特定技能外国人に負担させてはいけません。

この受入負担金は、教育訓練及び技能評価試験の実施、試験合格者や試験免除者の就職・転職の支援、受入企業及び1号特定技能外国人に対する巡回訪問並びに母国語相談ホットライン業務など、JACが特定技能外国人受入事業実施法人として実施する共同事業に充てられます。

## ■受入負担金

| 対象となる特定技能外国人の別                 | 受入負担金の月額 |
|--------------------------------|----------|
| 海外試験合格者(本機構が指定する海外教育訓練を受ける場合)  | 20,000円  |
| 海外試験合格者(本機構が指定する海外教育訓練を受けない場合) | 15,000円  |
| 国内試験合格者                        | 13,750円  |
| 海外試験免除者(技能実習2号修了者等)            | 12,500円  |



建設分野では、専門工事業者団体、元請けゼネコン団体によって、(一社)建設技能人材機構が設立され、しっかりとした受け入れ態勢で「不法就労」「法令違反」を防ぎ、健全な人手不足対策を行っています。また、「無料の日本語教育」や「各種講習・研修」など受入れ前から受入れ後まで(一社)建設技能人材機構がサポートしてまいります。

2023年5月末時点、建設分野における特定技能1号在留外国人数は、17,404人(速報値)、特定技能2号在留外国人は11人であり、現在、この制度を利用している企業は増加しており、人手不足対策を真剣に考える時期になってきていることがわかります。

本稿を機会に、建設企業の皆様が、この特定技能外国人制度を正しく理解し、有効に活用することで、それぞれの建設企業の皆様の人材確保策の一助となれば幸いです。

# 人生をかけ来日している彼らを受け入れた以上は、最後まで面倒を見る

## 黒澤工業株式会社



茨城県の黒澤工業株式会社では、2015年から外国人の受入れを開始し、現在も多くのベトナム人を雇用しています。今回は、同社代表の黒澤さんとベトナム人3名の声をご紹介します。

## 受入企業Interview

代表取締役 黒澤 克之 氏

### ● 企業プロフィール

所在地:茨城県笠間市安居 2891-1

事業内容:ダクト工事/空調設備工事/産業空調設備工事/  
板金製作/製缶製作 など

Website: <https://www.kurosawa-ind.co.jp>

### ● 初期導入

- ・寮の確保 (Wi-Fi環境あり)
- ・希望者には原付バイク支給  
※免許取得は自己負担 など

### ● 給与体系イメージ

- ・特定技能 (月額基本給) 約21~28万円  
※技能習熟等に応じた昇給あり
- ・技能実習 (月額基本給) 約17~20万円



従業員数**52名**  
内)特定技能5名/  
技能実習9名(すべてベトナム人)

## POINT

- 関東では先駆けとなって外国人を受け入れる
- 帰国者が活躍できるよう現地法人を設立
- SNSでコミュニケーションの深化をはかる

### Q. 受入れを決めた理由は?

当社はマンパワーを必要とする会社です。若手入職者を増やす選択肢として、外国人を雇用することに迷いはありませんでした。ただし、当時はまだ多くの建設会社が外国人の受入れを躊躇している時期でした。その点では、当社は関東でも早々に受入れを決めた先駆的な存在だったと思います。

### Q. 受け入れて良かった点は?

彼らは日本の文化も言葉もわからないまま来日して、そんな中でもモチベーション高く仕事をしています。その姿が日本人の社員にとって手本にならないわけがありません。すごく刺激を受けたと思います。また、ベトナム人は陽気な性格が多く、社内が明るくなりました。

### Q. 今後の展開を教えてください。

日本で技術を習得してベトナムに帰り、建設会社に就職しようとしても、いわゆる“日本式”の工事を行なっている会社は限りなく少ないのが現状です。そこで、彼らが身につけた技術を発揮できる場所を作るために、現在、現地法人の立ち上げを準備している最中です。受け入れた以上は、最後まで面倒を見る。これは雇用主として当然のことだと考えています。



■ 本社に併設された工場内での作業の様子



■ 現場以外に工場でのダクト製造にも従事

## 現場で働くみなさんの声

日本での仕事や生活、またこれからの目標について、特定技能1号のハンさん、グエンさん、ティンさんの3名にお話を伺いました。



ハンさん

## 夏は海、冬は温泉へ。いつかは家族に日本のすばらしさを伝えたい！

母親から日本で働くことを勧められて来日を決めたという、親思いのハンさん。母国にいる家族の生活を少しでも支えたいと、技術の習得にも余念がありません。夢は、特定技能2号になって、家族を日本に呼び寄せること。「夏だったら日本の海へ連れていきたいです。冬だったら温泉がいいですね」。発想が日本人と同じなのが微笑ましいです。



グエンさん

## 日本で手に職をつけ、母国で起業するのが目標です！

高校を卒業後、農業大学に合格していたものの、家畜の病気が流行し始めたことがきっかけで、将来の仕事に危機感を感じ、進学を断念。日本で手に職をつけようと一念発起しました。「日本ではお金を稼ぐだけでなく、しっかりと技術を身につけたいです」と、グエンさん。将来は母国に帰って、エアコンを取りつける仕事で起業する計画も立てているそうです。



ティンさん

## たくさんの魅力を体感したくて、日本で働くことを決めました！

ティンさんは友達から日本の魅力を聞き、来日を決めました。「日本には景色の良い場所がたくさんあり、親切な人が多いと知り、楽しみにしてきました」。実際はどうだったのかと質問すると「会社の人たちにはいつも助けてもらっています」と、笑顔で答えてくれました。会社の行事で楽しみなのが忘年会。パーティーのような雰囲気大好きだそうです。

## Action 受入企業の取り組み

管理部安全課 課長  
小林 有希子氏

2015年の受入れ当初から重視していたのが、彼らの生活環境を整えることでした。そこで、関連企業を介して、母国で学校の先生や通訳をしていた女性のベトナム人を紹介していただき、生活をサポートする上での注意点などを教わりました。また、ベトナム人の従業員に直接、日本での生活についてアドバイスをしてもらうなど、1年ほどはご協力いただきました。その後は当社で世話役を用意し、現在は私が担当しています。私の実家は農家で、幼い頃から技能実習生を受け入れていたので、さまざまな国の人と接する機会がありました。それが理由なのか、来日したばかりのつたない日本語も、不思議と私は理解できます。プライベートや仕事についての相談にも乗っていて、反対に私の息子が算数を彼らに教えてもらうなど、“日本のお母さん”のつもりで彼らと接しています。

## Communication 距離を縮める工夫

職場で私が忙しそうにしていると、遠慮して話しかけてこないことがあるので、SNSでも相談を受け付けています。家に帰ってから「今日、仕事でこんなことがあったんだ」とベトナム語で伝えてくれるので、それを日本語に訳して読み、返答しています。それを繰り返していたら自然と距離が縮まりました。



「日本のお母さん」小林さんと「ハイ、チーズ！」

## Advice 受入れを検討する他社へ

コミュニケーションに関して言えば、毎日声をかけることが何よりも大切です。ベトナムは家族を大切に作る国なので、家族のことを聞いたり、反対にこちらも家族の話をしたり、お互いに自己紹介することで信頼関係が強まるはずです。彼らは人生をかけて日本へ来ています。ぜひ手厚くサポートしてほしいですね。



社内行事はベトナム人が中心となりいつもにぎやか

# FOCUS

## 地域課題の解決を通して生徒の力を伸ばす! 新たな担い手たちを育む、あくなき思い

東に紀伊水道、南に太平洋が広がる四国最東端の都市、徳島県・阿南市。徳島県立阿南光高等学校は、2018年4月にこの地の2つの高校の再編統合により開校した、徳島で初となる農工商が一体化した専門教育を行う高校です。地域の未来を創造する力の育成をスクールミッションに掲げ、特色ある教育を展開する同校の取り組みについて、都市環境システム科科长・河野竜一先生に伺いました。



徳島県立阿南光高等学校  
都市環境システム科

河野 竜一 先生

### 農工商一体のメリットを活かした 特色ある取り組み!

宝田キャンパスと新野キャンパスという2つの拠点を置く同校。

「宝田キャンパスは、都市環境システム科を含めた工業科及び産業創造科の学び舎としています。一方、新野キャンパスは徳島大学サテライトキャンパスと位置づけ、高校と大学・企業などが連携して研究開発や実験を行う拠点。昨年からは工業科の生徒も、新野キャンパスで開催しているマルシェに参加し、地元企業さまと連携して間伐材を使った木工作品のワークショップや販売のお手伝いなどを行っています。工業科の実習のみでは経験でき

ないことに触れ、コミュニケーション力を育んだり、地域の魅力を再発見できたりすることも、農工商一体化のメリットです」

徳島県が定める『スーパーオンリーワンハイスクール事業』（特色ある教育活動のレベルアップやグローバル人材育成を図った支援事業）の指定校にも選ばれた同校。その取り組みも特徴的だ。

「阿南市は県内有数の筍の生産地なのですが、近年は安価な輸入筍の増加や生産者の高齢化、後継者不足などにより里山が荒廃し、大きな課題となっています。これを受けて本校では地元NPO団体と連携し、市内の放置竹林の伐採や、伐採した竹を活用したものづくりに取り組みま

あることなどから、防災用懐中電灯や移動式かまど、携帯型バイオトイレなどの防災用品を製作したほか、昨年からは他学科と連携して竹パウダーを使った水稻栽培、キノコの菌床栽培実験や竹水の研究開発を行うなど、竹を多目的な農業資材として活用し、放置竹林問題に取り組んでいます。今年度からは『スーパーとくしまGXスクール指定校事業』（大学などと連携しながらSDGsの学習に先進的に取り組み、その成果を他の学校に広く普及させることを目指す事業）としての活動へと移行し、そうした取り組みを継続的に実施しています。生徒たちも楽しみながら臨んでおり、全国の産業教育展でのプレゼンテーションの場などもあるため、活動を通して大きな成長を感じられます」

### ものづくり 部

### 全国大会出場を目指して練習の日々!



ものづくり部(測量)の顧問を務める河野先生。ものづくりコンテスト全国大会出場を目指して、早朝や放課後を利用して内業計算をはじめとした様々な練習に取り組んでいる。「ものづくり部の先輩が後輩たちに役立つよう残してくれた計算システムなどもあり、部員たちの成長に大いに役立っています。生徒たちには、まだまだ伸びしろがたくさんあります。彼らの力をどこまで伸ばせるか、私自身もやりがいを感じながらサポートしています」



### ベテランの目から見る 工業教育現場の変化

教員となり、まもなく25年。生徒の特性や授業スタイルの変化も第一線で感じている。

「教科書の内容を大切にし、原理や理論を理解させ、応用力を身に付けさせる。そうした基本的なスタンスは変わりませんが、タブレットや電子黒板などのICT活用が可能になったことで、内容を視覚的にわかりやすく伝えられるようになり、事例紹介や情報共有も容易になりました。ただ一方

で、生徒たちの“書く量”が極端に減ってしまったり、人は見るだけでは忘れてしまいがちなので、書いて覚えるということを意識的に促すようにしています。また今の生徒たちは、幼い頃からデジタルデバイスに触れている世代であり、趣向や目標も多様化しています。多くの情報から正しいものを見抜き、本質を見抜く力を身に付けてほしいと思います」

新学習指導要領が導入され、“生徒を見る目”の変化も求められている。

「特に観点の1つである『主体的に学習に取り組む態度』を見取るため、昨年度よりレポートに自己評価の欄を設け、生徒自身が自らを見つめ直せる仕組みをとっています。『主体的に学習に取り組む態度』とはつまり、探究心を持って自律的に学ぶ姿勢のこと。数値化するのが難しいですが、他教科の評価方法や他校における例などを参考にしながら、適正な評価となるよう改善を図っていきたく思います」

将来に向けて意欲的に取り組む生徒を、周りも一体となってサポートしている。「地元企業さまによるi-Construction講習会や現場見学会などは、最新技術や実際の現場を知る良い機会になっていますし、徳島県中小企業家同友会さまにご協力いただいている“社長塾”も、生徒の進路選択に大きなヒントを与えてくださる取り組み。また2級土木施工管理技士(第一次検定)などの資格取得に向けても、徳島

県県土整備部の皆さま、徳島県建設業協会阿南支部の皆さまなどのご協力により、講義や模擬試験を実施することができています。私たち教員も希望者に向けて補習を実施しており、学校・地域が一体となって引き続き生徒を力強くサポートしていきたいです」

### 地域の未来、生徒の未来を支えていくために

専門高校が全国的に減少傾向にある昨今。県内高校の統廃合などを目にしてきた河野先生も、現状に危機感を抱く。「地方においては、人口減少・少子化が加速的に進んでいます。普通科志向の高まりもあり、専門高校の在り方はドラスティックに変化している部分がありますが、人口流出や後継者不足による地域社会の存続危機、特に中山間地域における災害復旧やインフラ整備などを考えると、専門高校の役割は非常に大きいもの。徳島県においても産官学が一丸となって、各エリアの建設系学科を堅持しなければならぬと感じています」

地域の将来、業界の未来を担っていく生徒に寄せる想いもひとしおだ。「本校に在る間に、社会で活躍する力を



現場見学会やインターンシップのほか、企業経営者の方を講師に招いた“社長塾”なども開催。「社長塾では、働くことの意義をはじめ様々なお話をいただいています。先日は地元の伝統産業を海外展開する事業の様子などを語っていただき、生徒も大きな感銘を受けていました。多彩なお話が刺激となり、生徒の成長や進路選択につながっています」



ベテランながら“人生の中で今が一番勉強している”と笑顔を見せる河野先生。「私たちの職業は、将来を担う技術者の育成という崇高な使命を有する仕事。誠実に謙虚に、自己研鑽に努め、専門性を高めていくことが大切です。ただ自分自身を振り返ると、若い頃は本当に未熟で…(笑)。教員になってからのほうが勉強量は増えました」

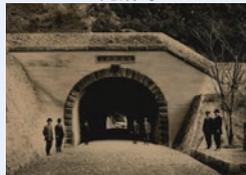
コレ推し!

## 土木建造物

### 松坂隧道(まつさかずいどう)

完成時

現在



徳島県南部に現存する、延長87m・幅員5.8mの直線状の松坂隧道。日本最古の現場打ちコンクリート造りの道路トンネルとして、国の登録有形文化財に指定されています。「竣工したのは1921年。当時、日本では未知の領域であっただろう工事に果敢に挑戦した土木技術者たちがいたことに、ただただ敬服するばかりです」(写真提供:株式会社姫野組)

しっかりと養ってほしいです。そのためには、まずは小さなことから挑戦し、自信をつけていくこと。本校の校訓にある“進取”が示すとおり、自ら物事に進んで取り組む精神を身に付けてもらえたらと思います。もちろん生徒だけでなく、教職員もそうした教育の提供に挑戦し続けていくことが大切です。私自身もさらに研鑽を積み、生徒の夢の実現を後押ししていきたいです」

そう語る河野先生の表情は力強く、今後も未来の担い手たちの背中を支えていくことだろう。



徳島県立阿南光高等学校

〒774-0045 徳島県阿南市宝田町今市中新開10の6

WEB <https://ananhikari-hs.tokushima-ec.ed.jp/>

## 40年ぶりのインフレと30年ぶりの賃上げは何をもたらすか 低賃金・低インフレのノルムに変化の予兆

みずほリサーチ&テクノロジーズ 調査部 次長 山本 康雄

消費者物価の上昇率が約40年ぶりに4%に達する中、2023年の春闘賃上げ率は30年ぶりに3%台後半に高まった。こうした物価・賃金の上昇が継続すれば、長らく続いた日銀の超金融緩和政策が変わる可能性が高まる。今回は、今後の物価・賃金動向をみる上でのポイントを解説する。

### 40年ぶりのインフレ、30年ぶりの賃上げ

エネルギー価格の高騰に円安の影響が加わり、輸入物価は昨年夏にかけて大幅に上昇した。輸入コストの上昇分を国内の財・サービス価格に転嫁する動きが今春にかけて強まる中で、消費者物価(生鮮食品とエネルギーを除く、いわゆる日銀版コアCPI)の上昇率は約40年ぶりに前年比4%を超えた。

この歴史的とも言える物価上昇に配慮する形で、多くの企業が労働者の要請に応え、賃金を引き上げた。連合(日本労働組合連合会)集計の2023年春闘賃上げ率は3.58%と、昨年の2.02%から大きく伸びが高まり、1993年以来30年ぶりの水準に達した。夏のボーナスに合わせて「インフレ手当」を支給する企業も多く、40年ぶりのインフレは、日本経済にさまざまな影響を及ぼしている。

### 低インフレ・低賃金の呪縛は解けるか

今回のインフレが起きる前、日本経済は長期にわたって低インフレ・低賃金の状態が続いてきた。モノやサービスの価格は据え置きが当たり前、春闘においてベースアップはゼロか小幅のプラスが精々というのが一種のノルム(規範)と化し、戦後最長に迫ったアベノミクス景気の時期にもその呪縛から抜け出すことはできなかった。

しかし、今回のインフレ局面ではこれまでにないほど多くの企業が自社製品・サービスの価格引き上げに踏み切り、コストを価格に転嫁する動きが強まっているように見える。また、少子高齢化の影響で人手不足が深刻化する中で、賃金にも継続的に上昇圧力がかかる可能性が高まっており、いよいよ低インフレ・低賃金のノルムが変わるのではないかとの期待が一部に芽生えている。超金融緩和政策を継続してきた日銀も、今回はデフレ懸念を払拭する千載一遇のチャンスととらえているだろう。

### 財価格の下落ペースに注目

今回のインフレがノルム変化につながるかを占う上で、筆者は2つの点に注目している。

一つは2023年秋以降の財価格の下落ペースである。輸入価格は昨年夏にピークアウトしており、すでに今年の春時点で前年比マイナスに転じている。価格転嫁の動きは今夏で一服し、秋以降の財価格の伸びは鈍化してくる可能性が高い。注目すべきは、この局面での企業行動である。これまでは、コストが下がると値下げしてシェアを確保しようとする動きが強まる傾向があった。今回もし、「やっと値上げしたのだから価格を据え置こう」と考える企業が多ければ、財価格の下落ペースは緩やかになるだろう。そうなれば、まさにノルム変化の兆候であり、それを確かめる上で、今秋以降はむしろ「値下げ」のニュース(がどの程度増えるか)に注目したい。

### 2024年春闘は企業経営者のスタンスに注目

もう一つの注目点は、いわずもがな2024年の春闘である。

まずは労働組合側が今年並みの賃上げを要求するか。連合は昨年12月上旬に5%程度の要求方針を決定しており、来年も同程度を要求することを12月ごろ決める可能性が高い(仮に組合側から要求水準を引き下げようであれば、ノルム変化はほど遠い)。

それに対して、企業側がどういうスタンスで交渉に臨むかがより重要であろう。23年の賃上げの後なので、24年はベアゼロも視野に入れた交渉になるのか、中長期的な人手不足が想定される状況下で、毎年ある程度のベースアップがあるのはもはや当然というスタンスで交渉が始まるのか、年末ごろからの企業経営者や業界団体の発言に注目したい。

もともと今回のインフレは輸入物価の上昇に端を発しているが、中長期的な物価動向を左右する要因としては、賃金とサービス価格の行方が重要である。残業規制の影響で、運送費などに上昇圧力がかかりやすくなるなど、少子高齢化を背景とした労働需給のひっ迫が継続的にサービス価格を押し上げる可能性が高まっている。人材確保のために、複数年にわたる賃上げを表明する企業も出始めており、低インフレ・低賃金のノルムが変わる蓋然性は徐々に高まっているように見える。

## 国の事業で原則適用に入ったBIM/CIM

日経クロステック建設編集長 浅野 祐一

建設生産を革新するために欠かせない設計や施工のデータ。その基盤となるのが、BIM/CIMで作成されたものだ。国土交通省が2023年4月に直轄事業でBIM/CIM原則適用に踏み切ったインパクトは大きい。導入当初に浮き彫りとなった課題とともに、今後の建設生産におけるBIM/CIMの位置付けを探った。

国土交通省は2023年4月、直轄の業務と工事に對するBIM/CIMの原則適用を始めた。土木の現場で、いよいよBIM/CIM活用が本格的に進む時代に突入したのだ。今後、設計から施工、維持管理にわたって、一貫通貫で生産性を高める基盤データの整備・活用が加速する見込みだ。

とはいえ、BIM/CIMの扱いに慣れていない施工者に、いきなり3次元モデルを作り上げるような作業を求めるのは無理がある。そこで施工者にはまず、BIM/CIMを活用するよう義務付けた。施工計画の検討補助や現場作業員への説明でBIM/CIMで作成した3次元モデルを活用するような取り組みが求められている。

原則適用は始まったばかりなので、現時点では課題も数多く挙がっている。異なるソフトで作成した3次元モデルなどのやり取りはその代表例だ。受け渡し時のデータ形式は規定されているものの、連携がうまくいかない場合もある。国交省では、こうした課題に応えるための窓口を設ける予定だ。

設計のプロセスと施工のプロセスでのデータ引き継ぎも課題の1つだ。施工段階では設計段階ほど精緻な情報が要らない場合が少なくない。このような連携の課題を解消するために、建設コンサルタンツ協会と日本橋梁建設協会が連携し、設計データから部材生産などに結び付けられるようなシステムの開発を目指している。

て、設計から維持管理まで一貫して使えるデータは不可欠だからだ。一歩先を見据えたプレーヤーは、上手にBIM/CIMを使いこなすための取り組みを既に進めている。

設計や照査の自動化はその代表例だ。例えば、八千代エンジニアリングと東京大学大学院は、3次元モデルを活用して照査の一部を自動化するソフトウェアの開発に取り組んでいる。既にプロトタイプを提示した。

オリエンタルコンサルタンツは、設計者が作った土工部の3次元モデルをICT施工に利用しやすいデータに変換するシステムを開発した。さらに、同社が開発したシステムでは、土工部のBIM/CIMデータに土の特性や締め固め回数などを記録できるようにしている。構造物に異状が発生した際に、こうしたデータを活用すれば、補修や復旧などが容易になる。

今後の現場活用例が増えていくにつれ、こうした流れは加速していくはずだ。建設生産プロセスを一貫通貫で合理化できるメリットがより浮き彫りになってくるに違いない。

### 設計図書の照査を自動化 施工データを維持管理に生かす

現段階ではBIM/CIMを活用して業務効率化を図るという意識が十分に浸透しておらず、「納品のためだけに3次元モデルを作っている」「必要以上に詳細度が高い3次元モデルを作成している」といった意見も出ているのが実情だ。

しかし、BIM/CIMの導入自体が、後戻りすることはない。建設生産プロセスの合理化を進めるにあつ

```

<CoordGeom>
  <Line length="94.906">
    <Start name="BP">-134492.609300 -31243.259760</Start>
    <End name="KA1-1">-134462.476634 -31153.264299</End>
  </Line>
  <Spiral length="37.5" radiusEnd="150." radiusStart="INF"
    rot="ccw" spiType="clothoid">
    <Start name="KA1-1">-134462.476634 -31153.264299</Start>
    <PI>-134454.532630 -31129.538410</PI>
    <End name="KE1-1">-134449.108977 -31118.255675</End>
  </Spiral>
  <Curve rot="ccw" radius="150.">
    <Start name="KE1-1">-134449.108977 -31118.255675</Start>
    <Center>-134313.917658 -31183.242652</Center>
    <End name="KE1-2">-134408.933782 -31067.173982</End>
  </Curve>
  . . .
</CoordGeom>
  
```

直線に関する記載  
クロソイドに関する記載  
円曲線に関する記載

3次元モデルをLandXML形式で表現した例  
(資料:国土交通省の資料に日経クロステックが加筆)

2024年まで残りわずか!!



# 働き方改革への最終チェック✓

5年遅れとされていた建設業における時間外労働の上限規制の施行まであとわずかです。働き方改革は単に労働時間を削減することが目的ではなく、生産年齢人口が減少し、働き手が不足する中、限られた時間の中で成果を上げるといった生産性の向上が本当の目的なのです。とはいえ、社内の労働環境を一気に変えることはできません。1つ1つの取り組みを重ね、上限規制への対応を準備していきましょう!!



## Profile

社会保険労務士法人  
アスミル  
特定社会保険労務士  
櫻井 好美

## 【第5回】定着率向上への取組

### ✓ チェック項目

- 社員教育をしていますか？
- 社員が働きやすい環境の整備をしていますか？
- 仕事の面白さを伝えていますか？

### ■定着率向上のために

今後、働き手が少なくなっていく中で、採用はもちろん大切ですが、今働いている人達が辞めない仕組みづくりも重要です。ITの急速な進歩、コロナ禍を通じて仕事への価値観、幸せの価値基準が変わってきています。会社も働く人のニーズに対応していく仕組みを検討していきましょう。

### ■社員教育

職人は「みて覚えろ」の世界だったかもしれませんが、それでは人はついてきません。もちろん、すべてが標準化した教育だけで完結するわけではありませんが、基本的なこと、要は一人前になるまではしっかりと教えていく必要があります。もちろんそれ以上に自分のスキルを身に付けていくのは本人の努力が必要です。教育を現場任せにしておくと、結局は退職が続き、いつまでたっても継続して働く人が増えていきません。教えるには時間も労力もかかるため、標準化していくことが重要です。

### ■仕事の効率化

労働時間の削減において、業務の効率化は必須です。いくら頑張っても人間の能力が倍速に早くなることはないのです。効率化においては、そもそもやることとやらないことの整理から始まりますが、いざやるべきことが決まったらその業務の効率化を検討します。効率化にあたってはITの活用は必須です。どうしてもITが得意じゃない人もいるかもしれませんが、全員が取り組まなければ、効率化にはなりません。全員が取り組むために、社内のフォロー体制も重要です。

### ■仕事へのモチベーション

仕事に対するモチベーションは外的モチベーションと内的モチベーションがあります。外的モチベーションとは、労働条件、福利厚生、報酬といった仕組みの部分です。これに関しては、まさに働き方改革をチャンスの時期と捉え、ルールの見える化や仕組みづくりをしていきましょう。しかし、内的モチベーションとは、仕事の楽しさ、やりがいといった部分になります。仕事に関する考え方は人それぞれです。本人が仕事に対して何を求めているのかを引き出し、ミスマッチを防ぐことが離職防止へもつながっていきます。

# 取組事例

きっかけ

## きっかけは「管理部門」

以前は、他の工務店と同じように休日も同業並み、そして大工も外注が中心でした。しかし、管理部門を強化することにより、会社の体制づくりに力をいれていくようになりました。

事例紹介  
協力会社

会社名：岡庭建設株式会社  
所在地：東京都西東京市  
業種：大工工事業  
従業員数：41名

## 大工の採用

工務店であるため大工の育成は必須です。高校生にはインターンシップ制度をとっており、高校2年生の時に3日間必ず現場をみてもらいます。そこで興味を持った子供たちが応募をしてくれるためミスマッチを防ぐことができます。建設業の仕事は屋内作業だけではなく、暑さの厳しい中でも作業をしなくてはならないため、しっかりと現場をみてもらうことが重要だと考えています。

## 新入社員の育成

中小零細企業にとって、社内で1から人を育てるのは大変です。弊社では、新人大工は東京大工塾(tokyo-daiku-jyuku.com)で教育をし、基本的なことを習得してもらいます。教育機関ですべてが完結するわけではありませんが、基本的なことを理解してから現場にでることで、少しでも不安を解消することができ、先輩も教える手間が省けるようになりました。その他にも、1年目、2年目の社員については、4ヶ月ごとに定期面談をし、仕事での悩み、困っていることをきくことで社員の離職を防いでいます。また入社3年生を新人のメンターにつけることで、日常の些細な困りごとを相談できるようにしています。

## フューチャーミーティングの実施

職場では仕事の話しかすることはできませんが、フューチャーミーティングでは自分がやりたいこと、会社にしてほしいこと等を吐き出す場を作っています。個々人の仕事への価値観も多様化する中で、お互いを理解すること、その中で会社は何ができるかを検討できる場になっています。



まとめ

定着率を高めるために、社員の立場からみた制度を多く導入しています。会社の制度に正解はありませんし、普遍でもありません。1つの制度に固執せず、入社してきた社員の状況を会社の人員構成をみながら対応していくということが、これからの人材の定着、ひいては企業が生き残る方法なのかもしれません。



## 山林見学会の実施

木造の家を建てているため、実際にその木材はどこからきているのか？木材の伐採から加工までの見学会を実施しました。加工場には伐採された木材が並び、そこで「岡庭建設〇〇邸様」といった木材を目にすることにより、自分たちの仕事の流れが確認出来、お客様にも自信をもって対応もできるようになりました。仕事の楽しさを感じてもらえるきっかけになっています。



## コミュニケーションの機会づくり

社員のコミュニケーションを円滑にするために、曜日を決め、夕方からモデルハウスでアルコールが飲めるような環境づくりをしました。まだ利用しているのは一部ですが、仕事とは関係のない環境をつくることで、普段相談できないようなことを気軽に相談できる場にしたいと思っています。

## 今後の課題

現場においてはCCUS(建設キャリアアップシステム)の導入、社内ではいくつかのシステムを導入してきました。それぞれ稼働はしていますが、さらに今のシステムを連携し効率化をはかることで、従業員の人達が今まで以上に自分の業務に集中できるよう環境を作っていきたいと思っています。

第50回

かわいい

土木



さめかど  
鯨角灯台  
青森県八戸市

## 八戸港を見守る 白亜の灯台

青森県南部の太平洋沿岸に、鯨角灯台という美しい灯台が建っている。三陸復興国立公園に含まれる風光明媚な種差海岸を見渡す絶好のロケーションだ。鯨角灯台の誕生には、江戸から続く漁港であった八戸港の発展の足跡が深く関わっていた。

Photo・Text ▶ フリーライター 三上 美絵

大成建設広報部勤務を経てフリーライターとなる。「日経コンストラクション」(日経BP社)や土木学会誌などの建設系雑誌を中心に記事を執筆。広報研修講師、社内報アワード審査員。著書『土木技術者になるには』(ペリカン社)、本連載をまとめた『かわいい土木 見つけ旅』(技術評論社)



「鯨」という珍しい名前のJR八戸線の駅から、「うみねこ号」という素敵な名前の遊覧バスに乗る。ウミネコの繁殖地として知られる蕪島の横を通り、コロナ禍で閉館したホテルのバス停で下車。海へ向かって歩くとすぐ、青い空と青い海を背景に、端正な白亜の灯台が現れた。一般からの投票で選ばれた「日本の灯台50選」の一つ、鯨角灯台だ。

灯台の高さは22.73m。丘の上に建っているため、海面から灯火までの高さは57.60mに及び、発する光は約37km先まで届くという。眼下に、海岸のきわを通る八戸線の線路が見える。その先は太平洋。国の名勝・種差海岸を一望できる。

春から秋の土日・祝日は一般開放され、人気のスポットとなっている(2023年は5月3日～10月22日。開放状況は八戸市のホームページを参照)。



▲ 灯台から太平洋を見る。波打ち際に、八戸線の線路が通っている。

アーチ型の入口には、右から「鯨角灯臺 初照 昭和十三年二月十六日」と書かれた銘板が掲げられている。初照とは、灯台が初めて点灯された日のこと。第二次世界大戦の空襲で被災し消灯していた一時期を除き、85年後の今日まで、沖合を照らし続けている。緑青だろうか、

うっすら緑色がかった銘板の旧字体が、年月の長さを感じさせる。

### 江戸時代から続く天然の港が 近代港湾に生まれ変わった

鯨角灯台は八戸港に出入りする船の目印として、長年にわたる地元の強い請願によって建設された。

八戸港のある場所は、古くから「鯨浦」と呼ばれる漁港であり、海が時化たときの避難港でもあった。地図を見ると、鯨角灯台の立つ場所は岬のように飛び出している。この東南側一帯の丘陵地に潮流がぶつかって北西側が湾形となり、水深の深い天然の港が形成された。

江戸時代前期の寛文11年(1671年)に、東北と江戸を結ぶ東廻り航路が拓かれると、鯨浦は年貢米や物資を運ぶ船の



▲ 海岸側から見上げた鯨角灯台。鯨浦を形成した段丘上に建っている。

寄港地として賑わった。

明治時代になり、地元の実業家・浦山太吉は、近代的な港の整備を求めて各界に働きかける。これを受けて、内務省のお雇い外国人技師・ムルデルが測量を行い、築港計画を作成した。だが、この計画は実現せず、明治24年(1891年)に東北本線が開通すると、鉄道が物資輸送の主役となり、鮫浦は寂れてしまう。

状況が変わったのは3年後のこと。八戸駅から支線が引かれて港近くに駅ができたのだ。これにより、青森から岩手にかけての沿岸部の物流は再び海運が主となり、鮫浦がその拠点として再び咲いた。

その後、大正8年(1919年)に漁港として防波堤や魚市場などの整備が始まる。このとき、関連施設の一つとして昭和12年(1937年)に建設されたのが、鮫角灯台だ。漁港工事に次いで、昭和7年(1932年)からは商業港として防波堤の延長や3000トン級の汽船が接岸できる岸壁、荷物の積み下ろしを行う物揚場などの整備も進んだ。

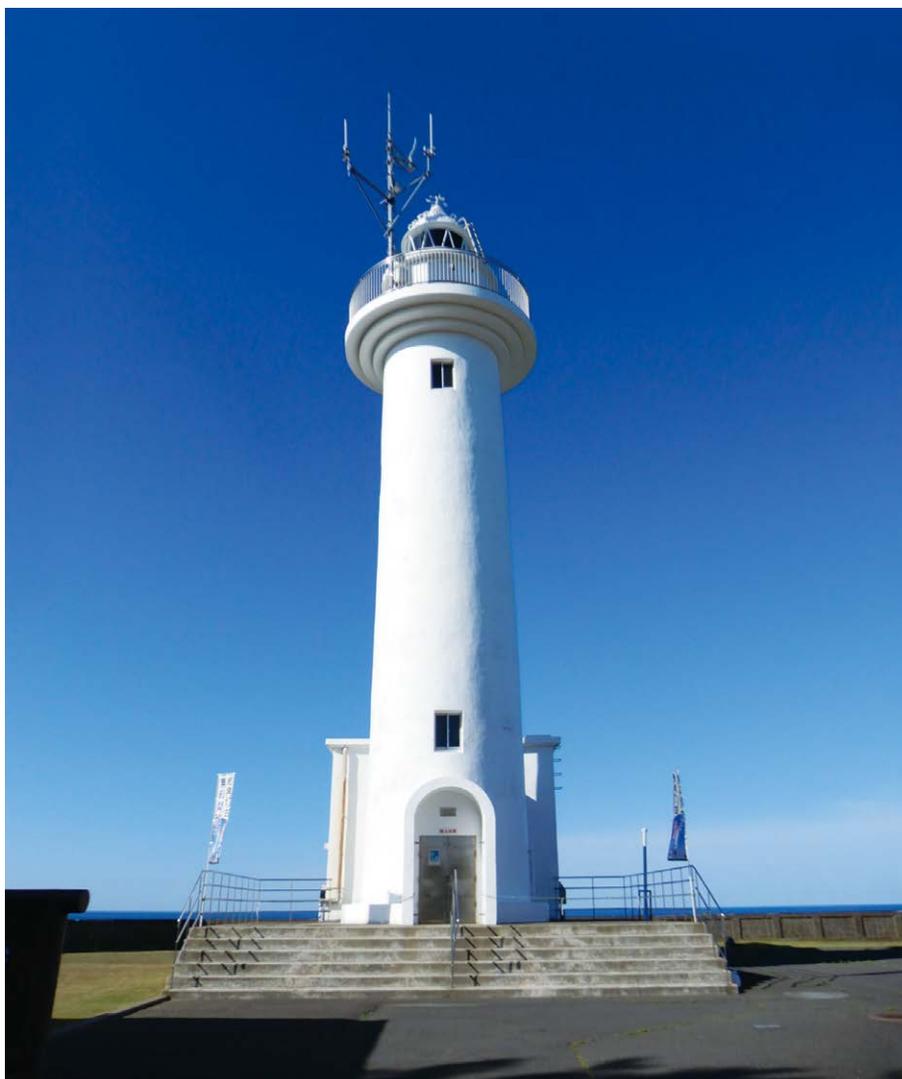
こうして近代港湾に生まれ変わった鮫浦は、八戸港と呼ばれるようになり、昭和10年(1935年)には国の重要港湾に指定された。後背地にはセメント工場や化学工場ができ、工業港としても重視され、さらなる拡張工事も始まった。

ところが太平洋戦争が始まると、工事の資材が海軍の特攻用小船艇基地の建設に転用され、八戸港の拡張は中断。終戦後には、食糧難を克服するための肥料や輸出用化学繊維の原料を輸送するために、八戸港の整備が急ピッチで進められた。平成時代の初期には、東北で初めての国際航路が開設され、現在も日本有数の漁港、工業港、国際貿易港として名を馳せる。物言わぬ鮫角灯台は、こうした八戸港の変遷を、今日も静かに見守っている。



## アクセス

JR八戸線鮫角駅前から種差海岸遊覧バス「うみねこ号」に乗り、シーガルホテル前で下車してすぐ。または駅からタクシーで約5分。



▲ 青い空に映える鮫角灯台。春から夏の週末や祝日には一般公開される人気スポットだ。



▲ 三角の窓枠や風向風速計がかわいい。



▲ 入口に掲げられた風格のある銘板。



▲ 2階展示室に、取り外された以前のフレネルレンズが展示されている。



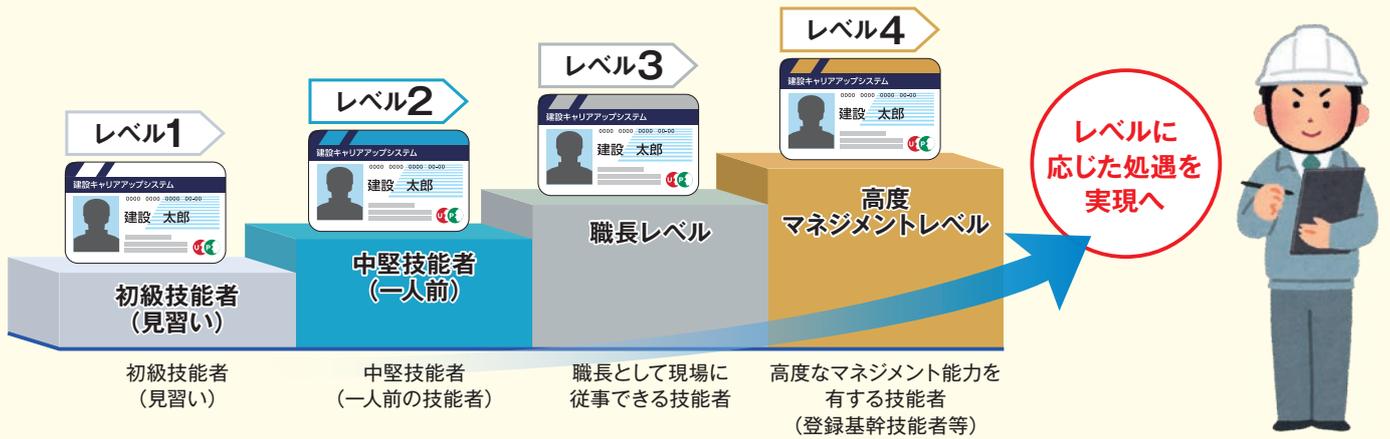
▲ 灯台内部には、塔頂部まで螺旋(らせん)階段が続く。



を活用しよう!

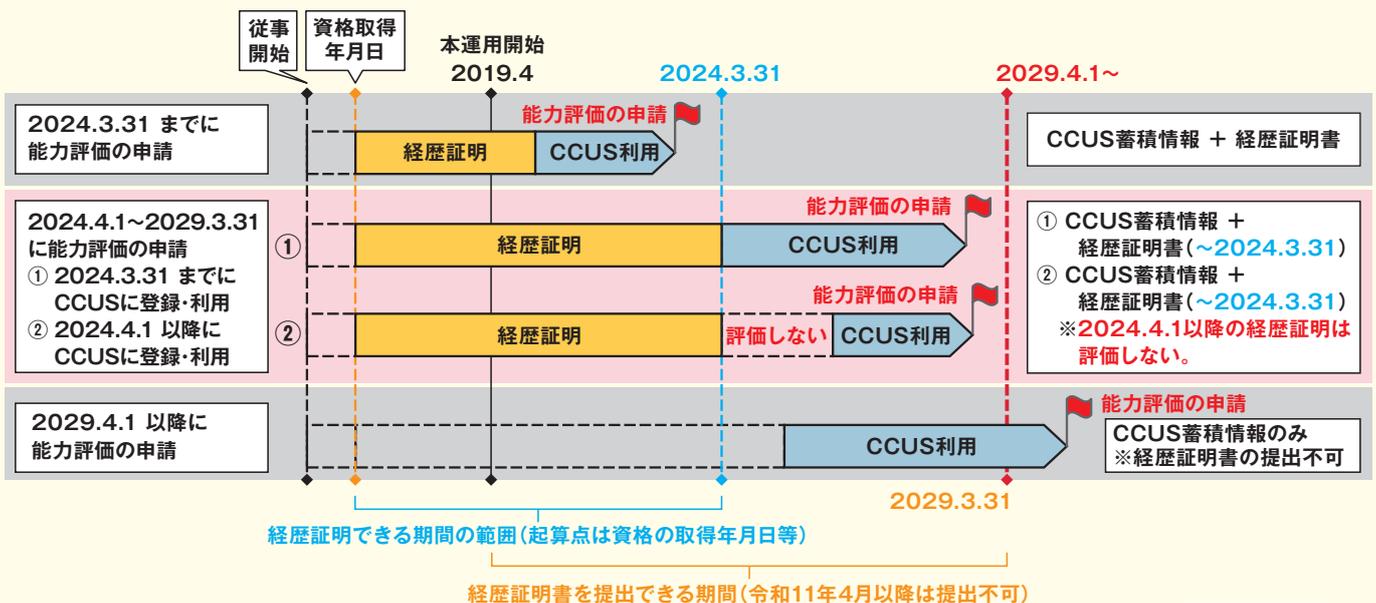
## CCUS登録技能者の能力評価(レベル判定)申請 — 経歴証明の活用 —

建設技能者の能力評価は、技能者のキャリアパスの明確化、技能に見合った処遇の実現などを趣旨・目的とし、見習い相当のレベル1から登録基幹技能者等のレベル4までの4段階で評価します。



評価項目は、CCUSに蓄積・登録されている①就業日数、②保有資格、③職長・班長としての経験日数ですが、CCUS利用環境が整うまでの就業履歴については、経過的措置として、所属事業者等によって作成された**経歴証明書**で評価することが可能です。この措置は、2024年(令和6年)3月31日までの申請が対象でしたが、期限を延長し、**2029年(令和11年)3月31日までの申請が対象となりました。**

**ご注意!** 経歴証明書で評価対象となる経歴期間は、**2024年(令和6年)3月31日まで**。  
それ以降はCCUSに蓄積された情報に限られます。  
元請事業者はカードリーダーの設置等利用環境の整備、各技能者は履歴の蓄積を!



「能力評価」について詳しくは、国土交通省ホームページのCCUSポータルサイトからご覧ください。(技能者の方の能力評価制度) ▶▶▶



# 建設業 ウェルカム

## 9月1日より募集開始

下記の訓練コースをもって、今年度の募集はすべて終了します。

### 最終コース一覧スケジュール出揃いました!

重要な  
お知らせ

|     |  |                        |                 |
|-----|--|------------------------|-----------------|
| 宮城県 | 第1回 建設コース<br>募集定員 10名程度                          | 訓練期間 令和5年11月9日～12月9日   | 申込締切 令和5年10月27日 |
| 群馬県 | 第1回 ドローン連携職人コース<br>募集定員 10名程度                    | 訓練期間 令和5年10月31日～11月28日 | 申込締切 令和5年10月13日 |
| 千葉県 | 第3回 建設ものづくりコース (解体・重機等オペレーター) in 柏<br>募集定員 10名程度 | 訓練期間 令和5年11月13日～12月7日  | 申込締切 令和5年10月27日 |
| 千葉県 | 第2回 杭打機オペレーターコース<br>募集定員 10名程度                   | 訓練期間 令和5年11月20日～12月16日 | 申込締切 令和5年10月16日 |
| 新潟県 | 第3回 建設土木多目的コース<br>募集定員 10名程度                     | 訓練期間 令和5年11月20日～12月22日 | 申込締切 令和5年10月20日 |
| 愛知県 | 第3回 あいちクレーン塾<br>募集定員 8名程度                        | 訓練期間 令和6年1月9日～2月17日    | 申込締切 令和5年12月25日 |
| 大阪府 | 第3回 なにわクレーン塾<br>募集定員 12名程度                       | 訓練期間 令和5年10月14日～11月10日 | 申込締切 令和5年9月30日  |
| 香川県 | 第2回 職人育成塾<br>募集定員 15名程度                          | 訓練期間 令和5年10月2日～11月16日  | 申込締切 令和5年9月27日  |
| 香川県 | 第2回 四国クレーン塾<br>募集定員 12名程度                        | 訓練期間 令和6年1月9日～2月2日     | 申込締切 令和5年12月15日 |
| 福岡県 | 第3回 建設技能者養成コース (とび・型枠) in 福岡<br>募集定員 10名程度       | 訓練期間 令和5年11月21日～12月15日 | 申込締切 令和5年10月27日 |



# フロンティア FRONTIER

建設の最前線へ!

## PROFILE

すずき ゆうま  
鈴木 悠真 さん

ドービー建設工業株式会社  
群馬県出身



## 「絶対にやりたかった仕事!」責任感と情熱を胸に、暮らしを支える橋を築く。

太陽がじりじりと照りつける橋梁工事の現場。進捗状況を確認しながら職人への的確に指示を出すのは、鈴木悠真さん。プレストレストコンクリート構造物建設のリーディングカンパニー・ドービー建設工業株式会社の工事部に在籍し、この現場での施工管理を担っている。「橋梁工事の現場では、夏の炎天下での作業や冬の寒空の下での作業は珍しくありません。また山深い地域から人々が多く暮らす都市部まで、現場となる場所も様々。人里離れた現場も不便さはありますが、付近を通行する周辺住民の方や一般車両の多い街なかの現場も、より緊張感を高くして周囲に注意を払わなければならない大変さがあります。そうした現場でも1日1日と計画通りに進めていくことにやりがいを感じますし、苦勞を乗り越えた分、竣工を迎えた時の達成感は並々ならぬものがあります」。

施工管理を行う上で特に留意しているのは、「現場を滞らせない」ということ。「手順ミスなどで手戻りが発生しないよう、職人の方と小まめに段取りを確認しています。現場では外国人の方も多く働かれていますので、日頃から密なコミュニケーションは欠かせません。業務を円滑に進めるため、先にこちらでお手本を示してから作業を行ってもらったことも大切です。また材料についても、昨今の資材の高騰や流通の減少などの影響は少なからず感じますが、早めに計画を立てて動くことで材料不足を防ぎ、現場がストップすることのないよう努めています」。

小さな頃からものづくりに興味があった鈴木さん。祖父が営んでいた金物店には大工職人が多く出入りし、建設現場に連れていってもらったこともあったそう。そうした原体験を経て進んだ工業高校の現場見学会が、今の仕事に至るきっかけとなった。「ちょうど通っていた高校の目の前がドービー建設工業の工事現場で、現場見学会に参加したことをきっかけに豊富な橋梁工事の実績などを知りました。昔からレトロな橋から最先端の橋まで、とにかく橋が好きで。将来は絶対に橋を造る仕事がしたい!と思っていたことが、入社を決め手になりました。入社して初めての現場も出身校の近くだったので、そちらでも現場見学会が開かれ、今度は社会人という立場で後輩や先生たちを迎えるという貴重な体験をさせていただきました(笑)」と当時を振り返る。

その後、兵庫県や岐阜県など様々な橋梁工事の現場で活躍を続け、現在は1級土木施工管理技士資格の取得にも動くなど、さらなる高みに向けて意欲を燃やしている。「一つひとつの現場を安全に、無事故で終わらせることが最優先。それに加えて、上司や先輩の仕事を見習いながら、もっと先々を見て、より現場を円滑に進められるようになりたいと思います」。そうした仕事面以外にも、休日には観光スポットにドライブに出かけたり、職場の仲間と温泉に行ったりと、楽しみも尽きない。「全国各地の現場に行く仕事。その地域ごとの楽しみに出会えるのも、大きな魅力だと思います」と、ひときわ大きな笑顔を見せた。

## Great Job!



ドービー建設  
工業株式会社  
代表取締役社長

稲田 義行 氏

昭和31年に北の大地で創業して、地図に残る仕事を志す社員たちが集いながら社会資本整備に貢献して参りました。

「まじめで明るく居心地の良い」社風のもとに健全な継続会社を目指していますが少子高齢化の波を受け、ものづくりの担い手不足が大きな壁となって立ちはだかって来ました。

この重要な課題に対し時代の流れに柔軟に対応しながら、社風を損なわず社員の働きやすさを第一に考え、働き方改革や時間外労働規制問題に真摯に立ち向かい、人材の確保と育成に積極的に取り組んで、今後もしなやかに健全な会社の継続を目指していきます。

建設人材育成優良企業表彰『不動産・建設経済局長賞』を受賞